

情報連絡員だより

－令和2年4月の報告より－

緊急事態宣言もあり、全体的に需要激減

業種 / 景況天気図		概況
全	体	新型コロナウイルスの感染拡大により様々な需要が減少し、業種を問わず仕事量が確保できない状況に陥っている。加えて、緊急事態宣言の発令もあり、やむを得ず休業しているという報告が多数上がってきている。業種によっては倒産を懸念する様子も窺え、前月に輪をかけて業況が悪化している。
製 造 業	食料品	パンは、緊急事態宣言発令後、極端に落ち込む地域があり総じて売上減少。菓子は、祝事や進物の需要が消え厳しい状況。製麺は、小売販売で例年並みの動きとなるが、業務用が極端に悪い状況が続く。酒造は、飲食店関係の取引量が大幅に減少。食肉は、豚肉の卸値上昇とスーパー向け需要増を背景に売上増加。
	繊維・同製品	刺繍は、イベント中止や百貨店等の休業で、取引先より生産計画中止や減産が要請される。繊維製品は、春夏物の在庫が増加し、秋冬物の発注数減少やキャンセルが発生する中、一部で布マスクや医療用ガウンの製造を開始。桐生織物は、業況が一層悪化。編レースは、業況悪化の中、新分野の製品開発の動きがみられる。
	窯業・土石製品	生コンは、利根沼田地域の出荷量が増加したが、東毛地域は低調で概ね前年並み。コンクリートブロックは、工事の着工遅れや輸入資材の停滞による納期遅れを原因として売上が減少。砕石は、一部で販売価格上昇に伴い売上増となるが、全体的には前年並み。砂利は、骨材出荷量が微増で、現状、悪影響はみられない。
	機械・金属	鍍金は、取引先の生産調整で仕事量が大幅減となり、休業する組合員が多発。自動車関連は、SUBARUの操業停止と部品供給の停滞が相まって5割以上の売上減少もみられる。電機関連は、全体的な業況は悪化傾向で今後の見通しが立たない。医療機器は、新型コロナの影響でCTスキャナ等が必要増となる。
	その他の製造業	木材は、販売価格の大幅下落が続き、荷動きも非常に悪い状況。紙加工品は、取引先業種の落ち込みによる悪影響を不安視。ゴム製品は、新型コロナの影響で取引先が操業停止したことにより、製品出荷が止まり売上減少。印刷は、印刷物減少により経営の厳しさが増しており、今後を不安視。
非 製 造 業	卸売業	食料品・酒類飲料卸は、取引先飲食店の閉店や倒産により売上が約4割減少。タイヤ卸は、輸送関連の停滞やSUBARUの操業停止により売上が3割程減少。農産物卸は、業界的に最悪といえる状況。水産物卸は、飲食店の休業や予約キャンセル等が相次ぎ厳しい状況にあり、今後は休業も視野。
	小売業	家電小売は、客先への営業ができず売上大幅減少。燃料小売は、販売不振が続き、時短営業や休業日を設ける組合員も散見される。生花小売は、イベントの中止により業況悪化の一途。中古車オークションは、成約率・単価が大幅に低下し業況悪化。商店街は、街中は閑散とし営業自粛もみられる。
	サービス業	温泉旅館は、県の休業協力要請以降は殆どが休館し、地域によっては従業員の雇用の維持が困難になるなど、逼迫した状況。建築設計は、建設現場の閉所等に伴う業況悪化を懸念。不動産取引は、業績は大きく落ち込み、売上・収益ともに減少。自動車整備は、売上・収益ともに前年並みに推移。
	建設業	建設工事は、公共工事量の地域差が拡大し、人手不足の弊害も発生。電気工事は、工事の遅延や中断により業況が悪化し、廃業検討の声が聞かれる。塗装工事は、緊急事態宣言発令後に工事が遅延し、仕事量が減少。鉄構は、納入先の建設現場の閉所が発生。解体工事は、空き家解体の助成金申請が始まり、見積依頼が増加。
	運輸業	燃料価格が値下がりする中、一部食料品・野菜関連の輸送は好調となったが、大手ゼネコンの工事中止や自動車メーカーの生産停止、イベントの中止などにより輸送量が大幅に減少し、大変厳しい状況。小口配送は、自動車部品関連の依頼がほぼゼロとなるほか、引越・スポット配送の依頼も減少し業況が悪化。